社会医療法人 愛仁会

千船病院

2025 年度

麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命
2. 専門研修プログラムの概要と特徴
3. 専門研修プログラムの運営方針
4. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数
5. 専攻医の採用方法と問い合わせ先
6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度
7. 専門研修方法
8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス
9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）
10. 専門研修プログラムの修了要件
11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価
12. 専門研修の休止と中止，研修プログラムの移動
13. 地域医療への対応
14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の管理を中心としながら，救急医療や集中治療，種々の疾病および手術を起因とする疼痛緩和医療などの領域において，患者の生命を守り，安全で快適で無駄のない医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康と福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間の生存に必要な呼吸器や循環器等の諸条件を整え，生体への侵襲行為である手術を可能とするための生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持し管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理の専門家である．同時に，関連分野である集中治療，緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と技能を生かし，国民の要求に応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

専門研修基幹施設である社会医療法人愛仁会千船病院（以下，本院），および社会医療法人愛仁会明石医療センター，社会医療法人愛仁会高槻病院，神戸大学医学部附属病院，兵庫医科大学病院，奈良県立医科大学附属病院，大阪医科薬科大学病院，近畿大学病院，関西医科大学附属病院，名古屋大学医学部附属病院，神戸市立医療センター中央市民病院，大阪市立総合医療センター，大阪警察病院，独立行政法人国立病院機構姫路医療センター，三田市民病院，医療法人社団英明会大西脳神経外科病院において，定められた麻酔科カリキュラムの到達目標を達成できる研修を提供し，十分な知識と技能と態度を備えた麻酔科専門医を育成する．

本院は初期研修医を受け入れる地域の総合病院であり，大病院では経験しにくいcommon diseaseの待機手術と，骨折や急性腹症や産科疾患などの緊急手術を幅広く行なっており，麻酔科医としての地力を鍛えることができる．2023年度の麻酔科管理件数は4,291件/年，うち全身麻酔は2,249件/年と，麻酔科医としてのスタートを切るには十分な症例数がある．また，本院は大阪府下随一の約2,400件/年の分娩があり，ハイリスク妊婦を含めた帝王切開（642件/年）や無痛分娩（998件/年）等の産科麻酔を豊富に経験することができる．

連携施設も充実しており，麻酔科医としての総合的な知識と技能だけでなく，専門的な知識と技能を身につけることができる．総合周産期母子医療センターを備える高槻病院では，新生児を含む小児外科や小児脳神経外科症例を研修できる．大阪警察病院や明石医療センターでは，豊富な心臓血管外科症例の研修を通じて日本ならびに米国の周術期経食道心エコー資格認定取得も目指せる．独立行政法人国立病院機構姫路医療センターでは，呼吸器外科

手術症例を研修できる. 大西脳神経外科病院では意識下開頭術を含む最先端の脳神経外科症例全般を研修できる. また, 神戸大学医学部附属病院, 兵庫医科大学病院, 奈良県立医科大学附属病院, 大阪医科薬科大学病院, 近畿大学病院, 関西医科大学附属病院, 名古屋大学医学部附属病院などの大学病院では, ペインクリニック, 集中治療, 緩和医療などを幅広く研修できる. さらに, 神戸市立医療センター中央市民病院や大阪市立総合医療センターなどの高次大規模病院では, 本院で経験できない手術麻酔を研修できる他に, 特色のある研修が行える. 例えば, 神戸市立医療センター中央市民病院では集中治療や緊急手術, 大阪市立総合医療センターでは小児や緊急手術などである. 地域医療については, 専門研修連携施設で行う.

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 少なくとも1年間は, 専門研修基幹施設である本院で研修する.
- 研修内容や経験症例に配慮して, プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように, ローテーションを構築する.
- 本院のような地域に密着した中小規模の市中病院と, 大学病院やそれに準ずる高次大規模病院の双方の特徴を活かす.
- 麻酔科領域には, 心臓血管外科麻酔, 小児麻酔, 産科麻酔, ペインクリニック, 集中治療, 緩和医療などのサブスペシャリティーがある. ローテーションは専攻医の興味や志望するサブスペシャリティーに配慮するが, 手術麻酔の基本の習得を優先する.
- ローテーションは, 臨機応変に柔軟に運用する.
- 地域医療の維持のため, 専門研修連携施設で研修を行う.
- 研修早期から, 日本麻酔科学会の学術集会をはじめとする学会への参加とともに, 発表および学術雑誌への投稿を指導する.
- 本プログラム修了後は, 本院常勤医師としての勤務を歓迎する. もちろん, 専攻医の志望するサブスペシャリティーや地域を考慮した勤務施設の相談と紹介にも責任を持って対応する.
- 大学院での研究を志望する場合は, 連携する大学やその他の大学に紹介する.

研修実施計画例

年間ローテーション表の例(あくまで例であり, この他の組み合わせや順序も考えられる)

	1年目	2年目	3年目	4年目
A	**千船病院**	**千船病院**	A病院	B病院
B	**千船病院**	**千船病院**	C病院	C病院
C	**千船病院**	D病院	E病院	F病院
D	**千船病院**	G病院	G病院	H病院
E	**千船病院**	I病院	J病院	J病院

F	**千船病院**	K病院	L病院	**千船病院**

週間予定表（千船病院の例）

	月	火	水	木	金	土	日
8:15	M&Mカンファレンス	抄読会					
8:30	症例検討	症例検討	症例検討	症例検討	症例検討		
午前	**手術麻酔**	**手術麻酔**	**術前外来**	**—**	**手術麻酔**	休	休
午後	**無痛分娩外来**	**無痛分娩**	**手術麻酔**	**—**	**手術麻酔**	み	み
当直			**当　直**				

4. 研修施設の指導体制と前々年度麻酔科管理症例数

① 専門研修基幹施設

◆社会医療法人愛仁会千船病院（麻酔科認定病院番号:770）

研修実施責任者: 角　千里

専門研修指導医:

角　千里（産科麻酔）　　大嶋　圭一（麻酔）

嘉山　邦仁（麻酔）　　平塚　剛（麻酔）

大山　泰幸（麻酔）　　菅野　睦（麻酔）

特徴:大阪市西淀川区にあり，2017 年 7 月に阪神電車なんば線「福駅」前に新築移転しました．初期研修医を受け入れる地域の総合病院ですので，大病院では経験しにくい common disease の待機手術，骨折や急性腹症や産科疾患などの緊急手術を幅広く行なっており，麻酔科医としての地力を鍛えることができます．2022 年度の麻酔科管理件数は 4,291 件/年，うち全身麻酔は 2,249 件/年と，麻酔科医としてのスタートを切るには十分な症例数があります．

地域周産期母子医療センター，MFICU（6 床），NICU（15 床），ICU（4 床）等を備え，24 時間母体搬送に対応しています．分娩件数は 2，400 件/年と大阪府随一ですので，ハイリスク妊婦を含めた帝王切開（642 件/年）や無痛分娩（998 件/年）等の産科麻酔を経験することができます．無痛分娩は麻酔科医が 365 日 24 時間対応し，硬膜外カテーテルを留置したら終わりではない質の高い鎮痛を目指しています．専門医取得の有無に関わらず，6 ヶ月以上の期間でこれらの産科麻酔を集中的に研修する態勢も整えています．また，減量・糖尿病外科が高度肥満症の腹腔鏡下肥満手術を行っているほか，低侵襲手術支援ロボット「ダヴィンチ」が導入され，より低侵襲の手術も増加しています．

最新の書籍や雑誌を揃えており，疑問点をすぐに調べることができ，自己学習の環境を整えています．毎週の抄読会では，書籍や雑誌からトピックスを学びます．毎週の M&M カンファレンスでは，難渋した症例や合併症のあった症例などを振り返り，自身が経験しなかった症例か

らも学ぶ機会を設けています．学会発表や雑誌投稿も積極的に行っています．当直明けは，その朝で勤務は終了です．

麻酔科管理全症例数：4,291

小児（6 歳未満）の麻酔：28
帝王切開術の麻酔：642
心臓血管手術の麻酔：0
胸部外科手術の麻酔：7
脳神経外科の麻酔：32

② **専門研修連携施設 A**

◆社会医療法人愛仁会明石医療センター（麻酔科認定病院番号：1166）

研修実施責任者：多田羅　康章

専門研修指導医：

岡本　健志（麻酔）
多田羅　康章（集中治療，麻酔）
藤島　佳世子（麻酔）
松尾　佳代子（麻酔，産科麻酔）
小阪　真之（麻酔，集中治療）
濱崎　豊
（麻酔，集中治療，心臓血管麻酔）
山崎　翔太（麻酔，心臓血管麻酔）
米田　優美（麻酔）
田中　舞（麻酔）

特徴：特徴：兵庫県東播磨医療圏で急性期医療を行っている．全身麻酔に硬膜外麻酔や神経ブロックなどを併用した管理や脊髄クモ膜下麻酔を積極的に行い，区域麻酔の技術習得を目指します．また，心臓大血管外科症例を通してJB-POTならびに米国周術期経食道心エコー資格の取得や，集中治療・産科麻酔（labor analgesia）領域の研修も可能です．

麻酔科管理全症例数：3,362

小児（6歳未満）の麻酔：3
帝王切開術の麻酔：375
心臓血管手術の麻酔：324
胸部外科手術の麻酔：157
脳神経外科の麻酔：0

専門研修連携施設 A

◆社会医療法人愛仁会高槻病院（麻酔科認定病院番号：829）

研修実施責任者：中島　正順

専門研修指導医：

中島　正順（麻酔）
西田　隆也（麻酔）
土居　ゆみ（小児麻酔，小児集中治療）
三宅隆　一郎（麻酔，心臓血管麻酔）
棚田　和子（麻酔）
佐藤　聖子（麻酔，救急）

特徴：大阪北部地域で赤ちゃんから高齢者まで幅広い層に医療を提供している．総合周産期母子医療センターを備えているため小児,産科手術麻酔が豊富である．また救急搬送も多く受け入れており緊急手術の麻酔症例も多く,心臓血管外科や脳神経外科等も含めた様々な手術の麻酔を研修することが可能である．

麻酔科管理全症例数：3,300
小児（6 歳未満）の麻酔：285
帝王切開術の麻酔：135
心臓血管手術の麻酔：117
胸部外科手術の麻酔：102
脳神経外科の麻酔：133

専門研修連携施設 A

◆神戸大学医学部附属病院（麻酔科認定病院番号：29）

研修実施責任者：溝渕　知司

専門研修指導医：

溝渕　知司（麻酔，集中治療，ペインクリニック）
佐藤　仁昭（麻酔，ペインクリニック）
小幡　典彦（麻酔）
野村　有紀（麻酔，ペインクリニック）
岡田　雅子（麻酔，集中治療）
大井　まゆ（麻酔，小児）
巻野　将平（麻酔，集中治療）
法華　真衣（麻酔，心臓血管）
末原　知美（麻酔）
牛尾　将洋（麻酔，集中治療）
上野　喬平（麻酔，集中治療）
岡田　卓也（麻酔，心臓血管）
藤本　大地（麻酔，集中治療）
武部　佐和子（麻酔，心臓血管）

特徴：大学病院であることから高度専門・先進医療を提供している。多種多彩な症例の麻酔管理を経験できる。また、集中治療やペインクリニック分野においても十分な研修を行うことが可能である．

麻酔科管理全症例数：6,062
小児（6 歳未満）の麻酔：178
帝王切開術の麻酔：193
心臓血管手術の麻酔：405
胸部外科手術の麻酔：348
脳神経外科の麻酔：165

専門研修連携施設 A

◆兵庫医科大学病院（麻酔科認定病院番号：85）

研修実施責任者：廣瀬　宗孝

専門研修指導医：

廣瀬　宗孝(麻酔, ペインクリニック)
多田羅　恒雄(麻酔, 輸液療法)
狩谷　伸享(麻酔, 産科麻酔)
髙雄　由美子(麻酔, ペインクリニック)
下出　典子(麻酔, 心臓麻酔)
植木　隆介(麻酔, 心臓麻酔)
竹田　健太(麻酔, 集中治療)
井手　岳(麻酔, 集中治療)
奥谷　博愛(麻酔, ペインクリニック)
岡本　拓磨(麻酔, 小児麻酔)

特徴:麻酔科管理症例は緊急症例を除き, 全例麻酔科術前外来受診を行う. 安全かつ効率的な手術室運営を構築し, 麻酔科管理症例数は全国でもトップレベルである. また, 大学病院の特性から, 極めてまれな症例, ハイリスク症例など特殊な麻酔管理も行われ, 貴重な症例は学会で報告し, 臨床麻酔のレベルアップに貢献している. 基礎的な手技ひとつひとつを丁寧に指導し, 特に気道確保のトレーニングは豊富なデバイス資源を元にプロならではの領域を目指す. 各科との協力体制も良好で, 手術室の支柱としてコミュニケーション能力には定評がある. 高機能シミュレーターによるトレーニングも可能である. また, 大学院博士課程専攻, ペイン, 緩和ケア, 集中治療のローテーションなどのプログラムを構築することができ, 各専攻医の目標に沿った研修を計画する. 育児中の女性医師の教育支援体制を構築中であり, 麻酔科医としての成長と両立する道を探る.

麻酔科管理全症例数:6,063
小児(6 歳未満)の麻酔:265
帝王切開術の麻酔:166
心臓血管手術の麻酔:270
胸部外科手術の麻酔:450
脳神経外科の麻酔:292

専門研修連携施設 A

◆奈良県立医科大学附属病院(麻酔科認定病院番号:51)
研修実施責任者:川口　昌彦
専門研修指導医:
川口　昌彦
渡邉　恵介(ペインクリニック)
惠川　淳二(集中治療)
林　浩伸
内藤　祐介
西和田　忠
田中　暢洋
藤原　亜紀
位田　みつる
阿部　龍一
野村　泰充
園部　奨太
植村　景子
甲谷　太一
吉村　季恵
紺田　眞規子
松浦　秀記

特徴：教室のモットーは「個性重視」「時代にあった新たな挑戦」そして「良好なチームワーク」です．仲良く，心地よく、喜びや充実感を得られればと考えています．手術麻酔だけでなく，集中治療，ペインクリニック，緩和医療をバランスよく研修することができます．手術麻酔では，心臓血管外科麻酔，小児麻酔，産科麻酔，脳外科麻酔，胸部外科麻酔科に加え，大学病院として先端的な医療や重症例を経験できます．小児心臓外科麻酔，新生児手術，無痛分娩も経験できます．周術期管理医としての幅広い知識も身に着けていただけます．麻酔専門医だけでなく，集中治療，ペインクリニック，心臓血管麻酔，緩和ケアなどのサブスペシャリティーの専門医の取得，研究のサポートさせていただきます．

麻酔科管理全症例数：5,810

小児（6 歳未満）の麻酔：264
帝王切開術の麻酔：316
心臓血管手術の麻酔：316
胸部外科手術の麻酔：254
脳神経外科の麻酔：362

専門研修連携施設 A

◆大阪医科薬科大学病院（麻酔科認定病院番号：19）

研修実施責任者：日下　裕介

専門研修指導医：

南　敏明（麻酔，ペインクリニック）
梅垣　修（集中治療）
日下　裕介（心臓血管麻酔，集中治療）
間嶋　望（小児麻酔）
門野　紀子（集中治療）
下山　雄一郎（集中治療）
中野　祥子（小児麻酔）
藤原　淳（心臓血管麻酔）
上野　健史（小児麻酔）
中尾　謙太（ペインクリニック）
長峯　達成（心臓血管麻酔）
佐野　博昭（ペインクリニック）
北埜　学（小児麻酔）
山崎　智己（心臓血管麻酔）
藤澤　貴信（心臓血管麻酔）
進藤　真美子（心臓血管麻酔）
野田　祐一（集中治療）
富畑　翔（集中治療）
鳥井　理那（ペインクリニック）
徳永　友里（ペインクリニック）
牧澤　佑樹（心臓血管麻酔）
三井　寛明（心臓血管麻酔）

特徴：2016 年 4 月 1 日より，新中央手術棟（手術室 20 室、集中治療室 16 床）が新設され，麻酔科医局はこれらに隣接しています．当院では，2023 年度，全手術件数 12,705 件，全身麻酔症例 6,658 件の実績があります．豊富な麻酔症例を経験でき専門医必要症例を全てバランスよく研修することが可能であり，さらに集中治療・ペインクリニックの研修も可能です．また，種々のセミナー（麻酔科学関連だけではなく，学会発表のための Power Point の使い方，統計など）の開催，専門医試験対策，学会発表・論文作成の指導，将来の志望に応じた人事面で

のサポートなどを行っています．ペインクリニック外来は，1966 年故兵頭正義教授が日本においては東京大学に次いで 2 番目に開設され，伝統があります．

麻酔科管理全症例数：7149

小児（6 歳未満）の麻酔：279
帝王切開術の麻酔：162
心臓血管手術の麻酔：293
胸部外科手術の麻酔：426
脳神経外科の麻酔：264

専門研修連携施設 A

◆近畿大学病院（麻酔科認定病院番号：112）

研修実施責任者：中嶋　康文

専門研修指導医：

中嶋　康文（麻酔，集中治療）
大田　典之（麻酔，集中治療）
湯浅　晴之（麻酔）
冬田　昌樹
（麻酔，集中治療，　ペインクリニック）
岩元　辰篤
（麻酔，集中治療，　ペインクリニック）
秋山　浩一（麻酔）
中山　力恒（麻酔）
木村　誠志（麻酔）
松島　麻由佳（麻酔，ペインクリニック）
北浦　淳寛（麻酔，集中治療）

特徴：①心臓手術，小児手術症例が豊富です。
②ペイン集中治療のローテーション可能で，スペシャリストが指導しています。
③国内，海外留学も希望に応じ可能です。
④医局全体でハラスメント対策を徹底し，年齢や学年間の垣根を越えて，忌憚の無い意見が言える楽しい職場を心掛けています。忌憚の無い意見が言える楽しい職場を心掛けています。

麻酔科管理全症例数：6,255

小児（6 歳未満）の麻酔：106
帝王切開術の麻酔：77
心臓血管手術の麻酔：605
胸部外科手術の麻酔：379
脳神経外科の麻酔：139

専門研修連携施設 A

◆関西医科大学附属病院（麻酔科認定病院番号：1234）

研修実施責任者：上林　卓彦

専門研修指導医：

上林　卓彦（麻酔）
萩平　哲（麻酔，呼吸器外科麻酔）
中本　達夫 （麻酔，ペインクリニック，区域麻酔，神経ブロック）

梅垣　岳志(麻酔, 集中治療)
中畑　克俊(麻酔, 産科麻酔)
岩﨑　光生(麻酔)
伊藤　明日香(麻酔, 心臓血管麻酔)
野々村　智子(麻酔)
旭爪　章統(麻酔, ペインクリニック)
金沢　路子(麻酔, 産科麻酔)
楠　宗矩(麻酔, 集中治療)
穴田　夏樹(麻酔)
西本　浩太(麻酔)
米田　寛子(麻酔)
内田　整(麻酔, 小児麻酔)

特徴:麻酔の各種分野(呼吸器外科麻酔, 小児麻酔, 心臓血管麻酔, ペインクリニック, 産科麻酔)のエキスパートが揃っており, 多数・多彩な疾患・手術患者に対する科学的全身管理が研修可能である.

また, 総合集中治療部では麻酔科を中心に closed system で集中治療診療を行っており, 内科系・外科系を問わず重症患者の全身管理が研修できます.

麻酔科管理全症例数:7,868
小児(6 歳未満)の麻酔:494
帝王切開術の麻酔:387
心臓血管手術の麻酔:364
胸部外科手術の麻酔:607
脳神経外科の麻酔:327

専門研修連携施設 A

◆名古屋大学医学部附属病院(麻酔科認定病院番号:38)

研修実施責任者:秋山　浩一

専門研修指導医:

秋山　浩一(麻酔, 心臓血管麻酔)
荒川　陽子(麻酔)
柴田　康之
(麻酔, ペインクリニック, 区域麻酔)
鈴木　章悟(麻酔, 集中治療)
浅野　市子(麻酔, ペインクリニック)
川瀬　宏和(麻酔, 集中治療)
尾関　奏子(麻酔, 集中治療)
園部　奨太(麻酔, 集中治療)
山根　光和
(麻酔, 心臓血管麻酔, 集中治療)
安藤　貴宏(麻酔)
赤根　亜希子(麻酔)
平井　昂宏(麻酔, 集中治療)
佐藤　威仁
(麻酔, 集中治療, ペインクリニック)
米倉　寛(麻酔, 集中治療)
駒場　智美(麻酔)
谷口　菜奈子(麻酔)
藤井　祐
(麻酔, 集中治療, 心臓血管麻酔)
天野　靖大(麻酔)
三澤　知子(麻酔)

特徴:名古屋大学医学部附属病院麻酔科では，年間 7,000 件以上の麻酔管理症例を有しており，超低出生体重児から超高齢者まで，あらゆる年齢層・疾患に対応した高度な麻酔研修が可能です．

2025 年度には，心臓血管外科 727 例，胸部外科 537 例，脳神経外科 413 例，帝王切開 185 例，6 歳未満の小児 472 例の麻酔管理を実施しており，幅広い診療科にわたる多様な麻酔症例を経験できます．特に小児麻酔分野では，2013 年に小児がん拠点病院に指定されて以降，小児外科，小児整形外科，小児脳神経外科などの小児がんに対する手術麻酔において豊富な実績を誇ります．2021 年度からは小児への Da Vinci 手術も開始されており，高度な小児外科手術麻酔の研修も可能です．

産科麻酔では，母体合併症や胎児異常を有するハイリスク妊婦の帝王切開麻酔を多く担当しており，超緊急帝王切開では決定から 30 分以内の娩出を目標に，産科チームと密に連携しながら迅速な対応を実現しているほか，無痛分娩にも対応しています．

心臓血管外科領域では，CABG や弁置換術に加え，大動脈瘤などの大血管手術にも積極的に取り組んでいます．重症心不全センターを併設し，年間約 10 例の体内式左室補助人工心臓（LVAD）植え込み術を行っており，心移植適応患者への高度な麻酔管理経験を積むことが可能です．2022 年度からは小児心臓外科手術も開始され，2025 年度には約 80 例の小児心臓外科手術の麻酔を行い，小児循環器麻酔にも深く関わることができます．

また，当院では腎移植・肝移植・心移植に対応しており，2025 年度からは肺移植も 4 例実施されました．移植医療の麻酔という，極めて専門性の高い領域においても実践的な経験を積むことができます．

そして，当院のもう一つの大きな特色が，麻酔科主導の Closed ICU である「外科系集中治療部（SICU）」の存在です．SICU では 2025 年度には年間 2,135 例の重症患者を受け入れており，その約半数が術後症例ですが，外科主科に起因する敗血症，ARDS，肺炎，急性腎障害といった重症疾患にも広く対応しています．麻酔科医が中心となって診療を行う Closed ICU 体制をとっており，術後管理だけでなく，感染症・呼吸循環不全・多臓器不全などの集学的治療を通じて，高度な重症管理スキルを身につけることができます．

麻酔科専攻医は 3〜6 ヶ月間の SICU ローテートが可能で，集中治療専門医の取得を目指す場合には，必要に応じてさらに研修を継続することができます．多職種連携を重視したチーム医療が行われており，医師としての視野を広げながら，麻酔＋集中治療の二本柱でのキャリア形成が可能です．

さらに，週 3 回のペインクリニック外来および入院管理も行っており，慢性疼痛や神経ブロック，がん性疼痛に対する介入など，麻酔関連領域にも幅広く対応できる力を養うことができます．

名古屋大学医学部附属病院麻酔科は，手術麻酔にとどまらず，集中治療，移植医療，小児・産科・心臓外科麻酔，ペインクリニックといった多岐にわたるフィールドで質の高い教育と実践の場を提供しています．豊富な症例数と充実した指導体制のもと，将来の専門医・指導医を目指すために最適な研修環境を整えています．

麻酔科管理全症例数:7,564

小児(6 歳未満)の麻酔:472
帝王切開術の麻酔:185
心臓血管手術の麻酔:727
胸部外科手術の麻酔:537
脳神経外科の麻酔:413

専門研修連携施設 A

◆神戸市立医療センター中央市民病院(麻酔科認定病院番号:217)

研修実施責任者:美馬　裕之

専門研修指導医:

美馬　裕之(麻酔, 集中治療)
山崎　和夫(麻酔, 集中治療)
宮脇　郁子(麻酔)
東別府　直紀(麻酔, 集中治療)
下薗　崇宏(麻酔, 集中治療)
柚木　一馬(麻酔, 集中治療)
野住　雄策(麻酔, 集中治療)

特徴:神戸市民病院機構の基幹病院として高度・先進医療に取り組むとともに救急救命センターとして24時間体制で1から3次まで広範にわたる救急患者に対応している。そのため心大血管手術、臓器移植手術、緊急手術など様々な状況で多種多彩な麻酔管理を経験できる。また、集中治療部を麻酔科が主体となって管理しているため大手術後や敗血症性ショック等の重症患者管理を研修することができる。

麻酔科管理全症例数:6,622

小児(6 歳未満)の麻酔:56
帝王切開術の麻酔:257
心臓血管手術の麻酔:484
胸部外科手術の麻酔:303
脳神経外科の麻酔:224

専門研修連携施設 A

◆大阪市立総合医療センター(麻酔科認定病院番号:686)

研修実施責任者:山田　徳洪

専門研修指導医:

山田　徳洪(麻酔)
池田　慈子(麻酔)
嵐　大輔(麻酔)
上田　真美(麻酔)
岡本　なおみ(麻酔)
小林　晶子(麻酔)
嶋津　和宏(麻酔、集中治療)
四宮　沙里(麻酔、集中治療)
田村　あゆ(麻酔)
森下　慶一(麻酔)
片岡　恵里佳(麻酔)

当院では一般的な症例の他に，以下のような特殊症例に関する研鑽を積むことが可能です．
・心臓麻酔：成人心臓外科：MICS，SHD
小児心臓外科：複雑心奇形手術，Glenn，Fontan 手術
・小児麻酔：新生児手術（食道閉鎖，横隔膜ヘルニア），高難度手術，頭蓋形成手術
・産科麻酔：グレード A 帝王切開，合併症妊娠，無痛分娩
・胸部外科：気管ステント，ロボット支援下手術
・麻酔鎮静：小児の MRI 撮影，ERCP
・集中治療：成人心臓外科術後管理，呼吸不全，重症内科的疾患

地域基幹病院，大学附属病院と連携し，周術期全般を見渡せる高水準な麻酔科専門医を育成します．

麻酔科管理全症例数：9,250
小児（6 歳未満）の麻酔：1192
帝王切開術の麻酔：485
心臓血管手術の麻酔：387
胸部外科手術の麻酔：418
脳神経外科の麻酔：384

専門研修連携施設 A

◆大阪警察病院（麻酔科認定病院番号：295）
研修実施責任者：北　貴志
専門研修指導医：
北　貴志（麻酔）
清水　智明（麻酔，集中治療）
荒井　章臣（麻酔）
井上　潤一（麻酔，ペイン）
一澤　真珠（麻酔，ペイン）
猪原　智恵（麻酔）
西村　暢征（麻酔）
河合　恵子（麻酔）
寺西　理恵（麻酔）
清水　千穂（麻酔）
上田　篤史（麻酔）
竹田　峰子（麻酔）
高田　祥子（麻酔）
小山　英彦（麻酔，集中治療）
柴田　晶カール（麻酔）
池田　真悠美（麻酔，ペイン）

特徴：症例数の多い急性期病院であり，小児外科を除くほとんどの科の症例が研修できる．

麻酔科管理全症例数：4,920
小児（6 歳未満）の麻酔：15
帝王切開術の麻酔：19
心臓血管手術の麻酔：228
胸部外科手術の麻酔：146

脳神経外科の麻酔:72

専門研修連携施設 A

◆三田市民病院(麻酔科認定病院番号:752)

研修実施責任者:笠置　益弘

専門研修指導医:

笠置益弘　　濱部　奈穂

諸岡　あかり　　佐野　もえ

特徴:バランスのとれた総合病院であり，麻酔の基本を学ぶ症例が充実している．整形外科手術，ロボット支援下泌尿器科手術や，膵頭十二指腸切除術，肝臓切除術等高侵襲手術も多い．神経ブロックを多くの症例で行っており，神経ブロックの症例を多く研修することが可能である．また，ペインクリニック外来を持ち，手術麻酔とともに研修可能である．

麻酔科管理全症例数:1,937

小児(6 歳未満)の麻酔:16　　胸部外科手術の麻酔:0

帝王切開術の麻酔:40　　脳神経外科の麻酔:9

心臓血管手術の麻酔:0

専門研修連携施設 B

◆独立行政法人国立病院機構姫路医療センター(麻酔科認定病院番号:1739)

研修実施責任者:長谷川　琢

専門研修指導医:

長谷川　琢(麻酔)

特徴:世界遺産・国宝『姫路城』の旧城郭に位置する405床(ICU6床、HCU6床)の病院です。呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、糖尿内分泌内科、血液内科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頚部外科、放射線科、麻酔科、リウマチ科、リハビリテーション科、緩和ケア外来、救急科の診療科があります。手術室は8室(1室は外来手術室)あり年間約3,000件の手術、約2,000件の全身麻酔を行っています。低侵襲手術支援ロボット「ダヴィンチ」が導入されており、泌尿器科、呼吸器外科、消化器外科がロボット支援手術を行っています。当院の最大の特徴は呼吸器外科手術が非常に豊富に行われていることです。年間約400件行われており分離肺換気を多く経験することができます。

麻酔科管理全症例数:2,045

小児(6 歳未満)の麻酔:0　　胸部外科手術の麻酔:402
帝王切開術の麻酔:0　　脳神経外科の麻酔:0
心臓血管手術の麻酔:0

③ 専門研修連携施設 B

◆医療法人社団英明会大西脳神経外科病院(麻酔科認定病院番号:1648)
研修実施責任者:鈴木　夕希子
専門研修指導医:
鈴木　夕希子(麻酔)　　岡田　幸作(麻酔)
特徴:意識下開頭術を含む脳神経外科症例全般に関する研修を行う.

麻酔科管理全症例数:473
小児(6 歳未満)の麻酔:0　　胸部外科手術の麻酔:0
帝王切開術の麻酔:0　　脳神経外科の麻酔:162
心臓血管手術の麻酔:0

5. 専攻医の採用方法と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は, 日本専門医機構が定める方法により, 応募期間中に研修プログラムに応募する.

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは, 千船病院麻酔科専門研修プログラムwebsite, 電話, e-mail, 郵送のいずれの方法でも可能である.

千船病院　診療部支援室　西村 祐美
〒555-0034　大阪市西淀川区福町3丁目2番29号　　TEL 06-6471-9541
E-mail:sennofune@aijinkai-group.com
URL: https://www.chibune-hsp.jp/

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度

① 専門研修で得られる成果(アウトカム)

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は, 4年間の専門研修を修了することで, 安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し, 国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる. 具体的には, 専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる.

- 十分な麻酔科領域および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 刻々と変わる臨床現場における適切な臨床的判断能力と問題解決能力
- 医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度と習慣
- 常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた経験すべき疾患と病態，経験すべき診療と検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

7. 専門研修方法

別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた①臨床現場での学習，②臨床現場を離れた学習，③自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

【専門研修 1 年目】

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA-PS 1～2 の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導のもと，安全に周術期管理を行うことができる．

【専門研修 2 年目】

1 年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪い ASA-PS 3 の患者の周術期管理や ASA-PS 1E～2E の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

【専門研修 3 年目】

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．さらに，後進を指導することができる．

【専門研修 4 年目】

3 年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医の指導を求めて患者の安全を守ることができる．

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録にもとづき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的に評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによりフィードバックする．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修 4 年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価をもとに修了判定が行われる．

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対して評価し，研修プログラム管理委員会に提出する．この評価により専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないように配慮する義務を有する．

研修プログラム統括管理者は，この評価にもとづいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

12. 専門研修の休止と中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断する．
- 出産あるいは疾病などに伴う 6 ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知する．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は，移動しても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての明石医療センター，高槻病院など幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻

医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

14.専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業する．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに，心身の健康維持に配慮する．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する．就業環境に改善が必要であると判断した場合は，当該施設の施設長と研修責任者に文書で通達し指導する．